

姉妹都市として40年、大自然の中で 実感した友情という絆



大自然の中でキャンプ



「友情の火」をいつまでも…

7月21日から23日まで長野県川上村にある三鷹市の施設「川上郷自然の村」で、「三鷹市・矢吹町子ども交流会」が行われました。

矢吹町からバスに乗ること6時間半、大自然に囲まれた施設に到着した矢吹町の子どもたち40人。ここで、三鷹市の子どもたち33人と合流し、交流開始。5班（1班は8〜9人）で1つの村を編成し、シニアリーダーがそれぞれの村長となって、交流をアシスタントしました。

今回、矢吹町から参加した

蛭田^{（ワケダ）}侑華^{（ユヅカ）}さん（中畑^{（ナカノ）}小6年・寺内^{（テラウチ）}南^{（ミナミ）}）に感想などを伺いながら、交流事業を振り返ってもらいました。

「はじめは友達ができるか心配でした。最初はしゃべることもできませんでした。」と初日を振り返る侑華さん。到着してからはいろいろなゲームをしたり、お互い話かけたわりながら、徐々に打ち解けていったそうです。（三鷹の子たちとも、学校の先生の話やクラスの話などで盛り上がったとのことでした。）

初日の野外炊飯では、みんな「カレー」づくり。侑華さんは野菜切りの担当でした。飯ごうのご飯も上手に炊けて、外の食事は格別！だったとのこと。そして、就寝。「テントの中で寝袋に寝ました。眠る前にもみんなといろいろな話をしました。寝袋は初めてで暑いなあと思いましたが、ぐっすり眠れました。」

2日目には、藍染めにも挑戦。「Tシャツに輪ゴムで丸く留めて染めました。まあまあ良くできたと思います。村ごとの発表の時にも着たんです！」とのこと。（このシャ



三鷹市役所（広場）での記念の1枚



盛り上がった村対抗運動会



みんなで協力して作ったカレー。味も格別！